

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	一般社団法人虹の里コアラの家				公表日	2025/2/1
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		子どもの人数や療育内容に合わせてパーティションを利用して個別に行えるようにしている。	小さめの机やいすを導入するなど、個別にできる環境を整えていく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令を遵守した職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		全体的にバリアフリー化はされているため、破損場所の確認・修繕を行うようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		常に清潔を保つように心がけている他、年に数回、大掃除を実施している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもにとって必要な場合は、職員間で話し合い、利用を認めている。	安全確保のため、定期的に様子を確認する他、安全を確認できるようなツールを設置していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		療育開始前後に職員同士の打ち合わせを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の意向については計画書の確認時に行っていたが、今年度は計画書作成前に調査を行った。	計画書作成時の調査については続行する。来年度は全員の意向を把握できるようにしたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		常に意見が言える環境作りを心掛けている。	意見が言える環境と同時に、どのように改善したいのか具体的に考える環境にしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	行っていない。	外部評価を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修への積極的参加を促している。	土日祝日に開催される研修への参加は難しいスタッフが多いため、できるだけweb開催を中心に考えていく。事業所内研修については、事例検討の機会を増や
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		プログラム作成は行っている。	公表の方法については検討していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		今年度は計画書作成時に保護者の意向を記述式で調査した。	子どもたちの生の声をアセスメントする方法の検討を行う。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管だけでなく、担当スタッフの評価、心理・保育両面からの専門的な意見をもとに行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書については、いつでも確認できるように個々の記録と一緒にファイリングしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化したアセスメントツールを用いている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		年に二回以上、アセスメントとやモニタリング表を行い、個々に適した具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		療育担当者同時外見を出し合って、プログラムを設定している。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年に数回のイベントの他、今年度より、少人数の集団活動を取り入れる取り組みを始めた。	家族からは、特化した内容を重視したいという意見もあるが、アセスメントの結果、少なからず、集団での困り感はあるので継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		アセスメントをもとに、個別活動を重視する場合もあるが、誰もが集団での困り感があるため、組み合わせるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		当日の支援内容や役割分担、連絡事項等を共有するミーティングを行っている。	勤務者が日々変わるので、職員間同士の伝達を中心だが、連絡帳を作るなど伝達方法の検討を行ってきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日の支援内容について振り返りを行っている。できない場合は、次回までに確認する様にしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録方式は二種類の形式を作り、試行中である。	二種類の記録方式を試した結果、独自の記録方法を検討し、来年度導入を目指す。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年二回モニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」を中心に支援を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		意図的に自己選択できる課題を準備している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			参加した後に必ず伝達をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		体制は整えているが、今年度の連携は少なかった。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	研修を受ける機会を設け、積極的な参加に努めている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日ごろのフィードバックだけではなく別の日に話し合う機会を作っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニングを行っている。	利用する人が少ないので、周知の方法を考えていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		丁寧に説明するようにしている。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		終了時のFBを通して、お子様の状況を伝え、情報共有をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画書を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があったときには、相談に応じたり、職員間で検討して速やかに対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	兄弟同士での交流は行っていないが、有志が集まって話し合う機会は作ってる。	家族同士の交流の機会は設けているが、参加者は限られている状態である。活動を広げていけるような方法を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速・かつ適切に対応している。職員間で内容を共有しあうことで再発防止につなげている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	イベントの時は口頭で発信している。できるだけ、参加ができるよう、日にちの変更をした。	現在の口頭でも発信から、ほかの方法で行うことも考えたい、
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理については、鍵のかかる場所への保管を行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれの障害等に合わせて伝達方法を考えている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルについては、入り口に準備しており、いつでも見ることができる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの策定は終了し、実際の場面で実施した。	実施後、改良の余地があることがわかったので、今後行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時、毎年のアセスメント実施時に確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事・おやつは提供していないが、アレルギーの有無については確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、職員間で共有している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの報告書を作成し、申し送り等で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員が中心となり、事業所内研修を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		該当者がいる場合のみ、保護者の同意をいただいて計画に記載する。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般車d何法人虹の里 コアラの家		
○保護者評価実施期間	2024/12/15		2025/1/15
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2024/12/1		2024/12/28
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025/1/8		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を中心に行っていることにより、一人一人の困り感を把握しやすい。また、困り感に対して、子供に向き合っ、じっくりと関わることができるため、子供に伝わりやすい。信頼関係が構築され、自己肯定感の向上につながる。	個別療育を行う中で将来的に困るであろうことを先読みし、困り感が少なくなるようにアプローチを行う。個別のニーズに合わせて療育を行い、家族へFBを行い、家族との情報共有を行っている。	個別療育は、一人のスタッフにゆだねられてしまうことが多く、療育内容が偏りがちになる。ケースカンファレンス、定期的な評価、支援計画の見直しを行うなど、連携をはかる。
2	短時間の集団療育(ミニゲーム)により他者との関わりを通して、自然発生的なSSTを行うことができる。また、多職種によるアセスメント・アプローチが可能となる。	これまでの取り組みとして、モノを運ぶゲーム、言葉遊び、工作などを週替わりで行ってきた。多職種で観察を行い、評価を行う。「できるのは当たり前」ではなく「できることは伝えて肯定する」	ミニゲームは始めたばかりであるが、子どもたちの中では定着してきた。スタッフ間でもアイデアを出し合い、集団で楽しめることを考える機会になっている。
3	時間的にゆったりとできるため、FBで家族の困っていることにもアプローチしやすい。	保育園や幼稚園などでの様子の聞き、保育園、幼稚園、家庭、コアラの家での対応の違いによって子供が混乱しないようしている。 就学前には、家族に声をかけ、就学の方針や悩みを聞くようにしている。	就学前に発達検査を行う子が多いため、家族の希望があれば、検査結果をもとに苦手なところにアプローチしていくシステムを作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流が少ない。	保護者同士が一緒になることが少ないので自然発生がない。また、保護者によっては、子どものことを知られたくない、などの理由により、必要を感じない保護者が多い。新型コロナウイルス等感染対策で交流の場の提供ができなかった。	親の希望に合わせ、就学先に先輩となる児童がいる場合は、学校の様子を聞く機会を設ける。
2	研修の機会が少なく、多くのスタッフは事業所内での研修のみになりやすい。スキルアップの機会が少ない。	勤務時間外での研修への参加が難しいスタッフも多く、外部研修が受けにくい。 研修方法について確立できていない。	勤務時間内に行われる研修については、参加を促し、勤務調整を行う。
3	療育の他に、ペアレントトレーニングなど保護者向けの取り組みも行っているにもかかわらず、利用者が少ない。あまり知られていないので事業所をアピールが必要。	ペアレントトレーニングの実施者が少ないなど、一部のスタッフが業務過多になりやすい状況にあり、前向きに取り組むことができない。	情報の提供方法を考える必要がある。例えば、HP、利用者間でのSNS等。